

備後教区報

E-MAIL: paper@bingo.gr.jp

発行所

〒720-0052

福山市東町 2-4-5

本願寺備後会館内

教区報専門委員会

TEL (084) 924-5759

FAX (084) 931-9323

発行人

教務所長 高田英彦

第11回備後教区平和のつどい



二〇〇六年(平成十八)年度
第十一回備後教区平和のつどい

とき 十月三十日(月)

ところ みよしCCプラザ

テーマ 『平和を築く精神』

詳細は4ページ



うなぎさん ごめんなさい

「坊さんは釣りをしてはダメ」と言われ、それまで大好きだった釣りはやめていました。同じ殺生でも、私が生きるため、と、私の楽しみのため、とでは訳が違うとの理由です。

いまでもテレビの『釣りころつられころ』は大好きです。でも僧侶になってからは、タイトルの「つられころ」の部分は、ちよつと魚に対してあんまりじゃないか、と思うようにはなりました。

うちの寺にはボーイスカウトがあり、私はカブ隊(小学二・三・四年生の隊長です。

昨年、下見のため事前にあるキャンプ場へ行ったのですが、川をのぞいているうちに、「うなぎがおるな」と直感しました。

同時にそれまで眠っていた釣り好きの血が騒ぎ始め、さんざん迷ったのですが、ボーイスカウトには野外活動の項目として釣りがあること、また、そんなに簡単にうなぎも釣れないだろ

備後教区スカウト指導者会代表

深津組 光明寺

藤間 幹夫



う、と勝手な理由をつけて挑戦することにしました。

うなぎは夜行性ですから、仕掛けを夕方川に沈めて翌朝引上げる作戦です。

次の朝、早速仕掛けを引上げたところ見事に一匹かかっています。「とつたどー」と子どもは大はしゃぎ。

一方釣れるのは想定外だった私は大弱りだったのですが、結局、責任をとって蒲焼にするこ

とになりました。
蒲焼の作り方は皆さんテレビ等でご存知のとおりです。

子どもたちにも様子を見せたほうがいいのかとも一瞬考えましたが、「隊長は坊さんのくせにウナギを殺して食べたんで」の風評を恐れ、子どもたちから離れたところで行いました。

どういう因縁で坊さんに殺されなければならぬのか、哀れなうなぎです。

悪戦苦闘の結果、食べる部分があったの十センチ程度となり、これを約三十人で分けました。ところが子どもたちの数人は「いらぬい」と言って食べようとしません。

そのうちの一人、4年生の男の子に「どうして食べんの？」と理由をたずねました。彼は野山にいくと必ず虫を捕まえてきて説明してくれる子です。

彼はうつむきながらボソツと「おれ、かわいそうじゃ食べべん」と一言。

何て優しい子だろうか、とうれしかったのはほんの一瞬で、すぐに自分が取り返しのできないものすごく悪いことをしたような気になりました。しかし、

よくよく考えれば、私は肉や魚をほぼ毎日食べながら、そんな気持ちが起こったことはこれまで一度もなかったのです。

うなぎと人間を比較し、「うなぎに生れなくて良かったね」で片付けたり、「かわいそうだから食べない」では、本当の人生は深まらないでしょう。

いのちを殺して生きていることを当り前のこととして平然と生きている、という煩惱をかかえた私の有り様がええって見えなくなってしまうからです。

そのことに気づき、敢えて肉食妻帯の道に踏み切っていかけたのが親鸞聖人でありましょ

うなぎも私も、すべての生きとし生けるものに届けられた、「必ず救う」というはたらき、そして「煩惱を抱えたものこそが救いの一番のめあてである」とおっしゃって下さる如来さまに出遇わせて頂くことではじめて、私たちに生きるよろこびと、本当に深く生きるといこうとが恵まれるのです。

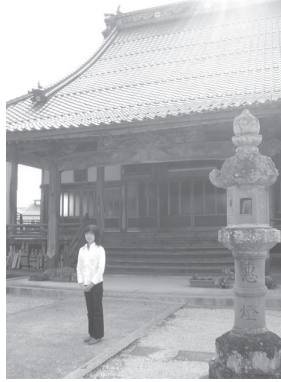
UNAGI



坊守。探訪

Vol.17 比婆組西楽寺
定光利恵さん

今回お訪ねしたのは、庄原市内にある西楽寺の定光利恵坊守さんです。



訪ねさせて頂いたのが土曜日という事もあってか、市内の中心部、市役所のすぐ裏とは思えないほど静かで落ち着いたお寺でした。

Q「こんにちは。この辺りは静かで良いところですね。」

A「今日は土曜日なので特にそうなんです。お寺にも九十一歳になる前坊守と住職と私と三人だけしか人が居ないので静かですね。」

Q「前坊守さんはお元気なんですか？」

A「元気なんです。六年前に病気を患って半身が不自由なので少し介護がいりますね。」

Q「そうなんですか。それではお寺の事と家の事を全て一人でこなして行かなければいけないので大変ですね。」

A「特に大変と思ったことはないけど、住職が留守の時は庫裡にお客さんが来られても分からないので庭の手入れや本堂の事が出来ないのは困りますね。でも住職が居る時はいろいろ手伝ってくれますから助かります。」

「ここで住職さん登場！」

皆さんご存じだと思いますがご住職はダーナ・インターナショナルセンターという団体で、熱心にインドやチベット難民の支援をされている方です。

住「坊守が嫁いできて大変だったことは、私がしよつちゅう外国へ行ったり、他国の人を家へ招いたりしてパーティをするもんだから、その接待が大変だったと思いますよ。今月もチベットから一人看護師になるために留学する子が来てたんですが、そういう子ども支援をしたり、日本での母親がわりをしたり色々やって



定光利恵坊守

くれています。

Q「他にはどこの国の方がいらっしやるのですか？」

住「地域の外国語の先生やその家族で国も様々ですね。私が若い頃留学先でお世話になったお返しに今度は日本に来られていらっしゃる方が手伝いが出来たら良いなと思って交流をさせてもらっているんですよ。」

Q「そういう時の準備も坊守さん一人でされるんですか。」

大変ですけどそうなんです。そこから色々な活動につながっていくと良いですね。」

A「前は色々してみた事もあるけど、お寺の活動って一人では出来ないんですよ。本腰を入れて活動しようと思うと、二世三代がそろって初めて色々な活動が出来るんだと思います。」

Q「なるほど、確かにそうかもしれませんね。ところで、先ほど

本堂の縁の下に、竹の筒が沢山置いてありましたが、あれはどうするのですか？」

A「あー、あれは年末に除夜会をするんですけど、その時に仏仕の方が竹を切ってきて竹灯籠をたててくださるんです。それが置いてあるんですよ。」

Q「竹灯籠ってロマンチックですね。仏婦の方も手伝いされるんですか？」

A「うちには仏婦はいないんです。そのかわり仏仕の奥さんがお手伝いしてくださいます。」

今は職場でも看護婦さんが看護師さんになられたり、保母さんが保育士さんになったりする時代ですから、新しい形の仏婦が出来たら良いな、と思っているんですよ。」

Q「最後にこれからの目標を教えてください。」

A「これといった目標はないですね。ただ、今は長男が帰ってくるまでの中継ぎだと思って日々の生活を大切に過ごして行ければ良いと思っています。」

Q「そうですね。私たちはついあれもしたい、これもしたい、と手を広げがちですけど日々の生活を大切に、今を大事に生きるというのが本当は一番難しいのかもしれないですね。ありがとうございます。」

臨時教区会報告

とき 九月二十六日(火)
午後二時より
ところ 本願寺備後会館本堂

教 区 会 議 長

深津組 専光寺 藤井徳行

九月二十六日(火)、右記の如く、臨時教区会を開催いたしました。このたびの議案は、財務承認議案五件及び同意案件一件でありました。

財務承認議案は、平成十七年度備後教区各種歳計決算(決算書別紙)を承認致しました。つづいての同意案件では、本願寺新見教堂(非法人)解散の同意をいただきました。

新見教堂は明治十二年に門徒有志の協力により設立され、明治時代には隆盛をむかえましたが、相次ぐ主管者の死亡により門信徒の多くは離れ、現在は門信徒もなく老朽化した本堂が現存しております。

このたびの教区会の同意を経て、今後総長の承認並びにご門主のご認許を得て解散となります。

なお、本願寺新見教堂は非法人のため、教堂名義の基本財産はありません。

第 11 回 備後教区 平和のつどい



去る十月三十日(月)、三谿組、三次組、比婆組の三組のご協力により、三次市「みよしCプラザ」の三階大ホールにおいて、第十一回「備後教区平和のつどい」を開催しました。今回はテーマを「平和を築く精神」森達也さんに学ぶ」として、映画監督・ドキュメンタリー作家である森達也さんを講師に迎えました。

森さんは自己紹介をも兼ねてということで自らが制作なさったドキュメンタリー「1999年 よだかの星」を見せてくださり、その後講演してくださいました。

予定時間を二十分もオーバーするという熱弁でした。

講演の後は三次組仏教婦人会連合会コーラス部の皆さん方が「千の」「みひかりの」「千の風になつて」の三曲を聞かせてくださ



いました。歌うことが楽しくて仕方がないという方々の、心にしみる艶のある美しいハーモニーでした。午前中のリハーサルから長時間にわたりご協力くださりありがとうございました。

このたびの「平和のつどい」に参加くださいました二百十五名の方々並びにご尽力くださいました関係者の方々にお礼申し上げます。



連研のための研究会

九月二十七日(水)、備後教区教務所において「連研のための研究会」が開催されました。

教区内の連研開催組・未開催組を問わず多くの参加者がありまして、四十三名という盛況ぶりでした。

今年度は連研推進に向けてをテーマとして、講師に長野教区の連研中央講師井上慶真先生をお招きしました。

研究会の内容として、午前の部では、芦田組・神石組・世羅組により組連研現況報告をいただき、それぞれの組における連研の取り組みの紹介・問題点や今後の課題について取り上げ、質疑がなされました。

午後の部からは、全体協議会としてその他の組の方からにも積極的にご意見をいただき、連研及び話し合いの推進・活性化について議論されました。また今後の指標として、連研をいかに維持・発展させるかについて話し合うだけでなく、連研未実施の組にも新しく連研を始めるためのノウハウを協議してほしいとのご提言もありました。

最後に、講師の井上先生からの助言・まとめの中で、「連研とは僧侶の研修でもなく、門徒



の研修でもなく、ともに学ぶ場である、と考えております。」
「これがいいという特効薬はない。なぜなら、各々の地域により状況・考え方・求めるものが違うから」とされつつも、連研の話し合いを進めることや、門徒推進員の素晴らしさを語ってくださいました。

連研履修者研修会

十月七日(土)、三次ロイヤルホテルにて連研履修者研修会が行われました。

これは連研を修了された連研履修者を対象に開かれたもので門徒推進員の連絡協議会との併催にて開催されました。

組織教化連絡協議会

十月十一日(水)、庄原市の庄原グランドホテルを会場に組織教化連絡協議会が行われました。

この会は基推第三部会と備後教区の各団体の代表による連絡協議会で昨年につづき二回目の開催となります。

出席下さった団体として、【総代会】より豊田淳祥世話人代表。【仏壮】より畠上耕治理事長。【少年連盟】より福岡真也委員長。【仏婦連盟】より河面静子委員長をはじめ、教務所長や第三部会の

委員の方々などを交え、各団体の現状と課題について活発な意見交換及び議論がなされました。

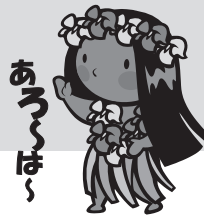
現状報告のなかに各団体が抱えている課題として、組織の空洞化・高齢化・登録単位のことなどが挙げられ、今後は企画発案する段階から共に話し合いの場を持ち、ただ単に組織を維持し、行事を消化するためでなく本当の組織教化活性にすべく、各団体が枠組みを越えた「横のつながり」をもてるようにしたい、ということを中心テーマとされました。

参加者による話し合い・全体会が行われました。

「なぜ話し合いが必要なのか」「話し合いを通じてどのような思いが変わっていったのか」等自分の思いを確認してもらい、また教区全体の課題として、今まで連研を「開催する」ことを目的としてきたが、なぜ「連研」・「話し合い」が必要なのか、という原点を確認させていただくような意義深い研修会となりました。

第十三回

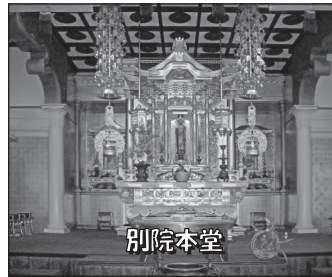
世界仏教婦人会大会



あづは



ハワイ別院



別院本堂



ヒロ別院にて集合写真

九月二日～三日「ハワイ州ホノルル市ハワイコンベンションセンター」において世界仏教婦人会大会が開催されました。今回の世界大会は総勢三八五二名という、多くの国からお念仏のご縁を喜ばれる方々が一同に集われました。

備後教区からは、百三十名の方々が参加されました。四年に一度の世界大会ですが、楽しみにしておられる方も多く、今までの世界大会や前回のブラジル、そして今回のハワイと続いてご参加いただいた方もありました。大会一日目は開会式に引き続

き、田中ケネス博士の基調講演ビデオ上映「ハワイに咲いた白蓮華」、パシフィックブディストアカデミーの生徒による発表、各国代表の意見発表、ワークシヨップ、歓迎夕食会等々盛りだくさんの内容でした。

二日目は最初に世界大会の総会が開催され、次回の開催が五年後に日本で開催されることが決められました。続いて閉会式が行われ正式に次回開催地の案内がなされました。閉会式終了後、アロハ昼食会交流会がもたれ、世界各国の余興が披露されました。最後は、総裁様もステ

ジに上がられ「ほほえみとともに」「アロハオエ」を会場内の参加者全員で歌ったのフィナーレでした。

今回参加された皆さんは、まさにお念仏のご縁に遇えた喜びを世界各国の方々と分かち合え、大変喜んでおられました。大会終了後は、ハワイ島の本願寺ヒロ別院へも参拝させていただきました。ハワイにおけるお念仏の歴史、現状と課題等について学ばせていただきました。九月一日に関西空港を出発し、七日に帰ってきた五泊七日の行程はお念仏の声に満ち溢れた日々でした。



北部研修会 (世羅組真行寺)

南部・北部合わせて二〇九名、年々増加する参加者をいただき、連研中央講師・大阪教区瑞松寺の野村康治先生から「老・病・死の現実をきく」ということでお話を頂戴しました。両日とも盛会のうちに終了いたしました。

南部			北部		
日	場	時	日	場	時
十月十七日(火)	沼隈西組福照坊		十月十八日(水)	世羅組真行寺	
参加者	九十三名		参加者	百十六名	

門徒総代会研修会

組だより

— 比婆組

教区報編集部では、各組よりお寄せ頂いた原稿を「組だより」として掲載させていただいています。掲載を希望される場合は、メール・FAX で編集部または教務所まで。

比婆組仏教婦人会連盟結成二十周年を記念し大会を開催。

このたび比婆組仏教婦人会連盟は十月二十一日(土)に庄原グランドホテルにおいて結成二十周年記念大会を開催いたしました。

大会スローガンに「ともにいのちかがやく世界へ」、大会テーマには昨年の教区仏婦五十年大会での「伝」を伝える・伝わる・伝えあうとして、来賓・法中・会員あわせて総勢三百名もの参加をいただきました。

午前中には記念法要と式典がおこなわれ、法要では会員による献灯・献華・献供・献香、そして正信偈のお勤めがされました。つづいての式典では、連盟会長、組長の挨拶、そのあと歴代会長三名への感謝状の授与式がおこなわれ、そして来賓でお越しくださった不二川公勝総長をはじめ、滝口季彦庄原市長、高田英彦教務所長など各方面の方々から祝辞をいただきました。

その後、昼食をはさみ、午後から仏婦総連盟講師・大阪教区大光寺住職 清岡隆文先生からこ法話を頂戴し大会は盛会裏のうちに終了いたしました。



大会風景

☆比婆組仏教婦人会連盟データ
結成 昭和五十九年十一月
会員数 千五百名
主な活動 総会、各種研修活動、ダイナ献金、ダイナ活動、ビハール活動。

総連盟・教区連盟の諸行事への参加。
各単位会においても独自の特色ある活動を活発におこなっている。
(精進料理講習会、コーラス、ビハール、サマースクールのお手伝いなど)

仏壮連盟夏期研修会

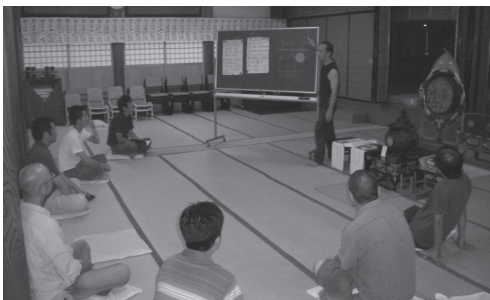
日時 八月二十七日(日)
会場 三次組 西善坊
講師 橋本朗仁先生(中央基幹運動推進相談員)
講題 『ともにいのちかがやく世界へ』

一〇〇名以上の参加のもと、平成十八年度教区仏壮連盟夏期研修会が行われました。午前・午後を通して中央相談員の橋本朗仁先生にお話いただきました。

ビハール備後 研修・協議会

日時 九月十五日(火)
会場 本願寺備後会館
講師 季平博昭先生(中央基幹運動推進相談員)
内容 『傾聴ボランティア』

二十名参加のもと、悩みの相談の聞き方について研修を深め、グリーンフケア(悲しみに寄り添う)の実践の基礎を学びました。今後、グリーンフケア実施に向けて取り組んでいきたいと思えます。



キャンプファイヤー講習中！

少年教化推進専門委員会主催
「灯火のつどい」

全国真宗青年の集い in 宮崎

八月五日(土)六日(金)の二日間、宮崎教区引き受けにて全国真宗青年の集いが開催されました。備後教区からは原田 薫委員長、中村道明中央委員はじめ八名の参加がありました。

当初の予定は四日(金)夜、大阪南港かもめ埠頭からフェリーにて宮崎入りの計画でしたが、高速道路の大渋滞に巻き込まれ、急遽

フェリーをキャンセル！新大阪駅発最終の新幹線で新山口駅まで行きホテルに宿泊。翌日早朝山口教区、安芸教区が予定していた団体バスに同乗(同情?)させてもらったの宮崎入りとなりました。トラブル発生にもかかわらず、参加者全員(担当者一名はボロボロ)とても元気に参加いたしました。

宮崎のシーガイアリゾートでの開催とあって、会場も、宿泊ホテルも、食事すばらしく、当然大会の内容もテーマ「ありがとう」

にぞった大変すばらしいものでありました。参加者の皆さんも、全国からの参加者の方々と交流を持つことができて喜んでおられました。

大会終了後は、レンタカーにて日南海岸をみながらドライブし、青海海水浴場にて海水浴！きれいな景色と海を満喫！帰りは予定通りフェリーにのって夕焼けの太平洋！満月の夜の海！みんな楽しく帰ってまいりました。来年は京都での開催です。みなさんぜひともご参加ください。

八月二八日(月)御調西組法泉寺を会場に灯火のつどいが行われました。

夏休み期間中教区内諸寺院で開催されたサマースクールの慰労と研修を兼ねたもので、本堂にてお勤めの後、福岡真也少年連盟委員長を講師にゲームの模擬演習を互いに意見を交換しながら行いました。

続いて裏山へ移動してキャンプファイヤーの実習の進め方や演出、注意事項などを確認しながら行いました。

その後の慰労会でも盛んに意見が交わされ、各現場での課題、情報交換の場として非常に有意義な研修会となりました。



飲料水を

呉市・江田島市へ

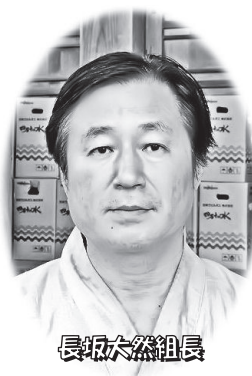
去る八月二十五日の送水トンネル事故による水不足に対応し、八月三十一日に備後・安芸教区より江田島市(佐伯沖組々事務所)へ飲料水(二リットル×一〇〇本)を教区内若手僧侶並びに両教務所職員にて緊急輸送致しました。また呉市(呉本願寺会館)にも同量の飲料水をお送りいたしました。



妙覚寺への搬入風景

佐伯沖組々長 妙覚寺住職

長坂大然さんの言葉



長坂大然組長

「特に感じましたのは、風呂水等生活用水の大切さであります。しかし、近隣での助け合い、また、お年寄りの間で水が縁となり『地球環境問題』の話し合いなど新しい発見もありました。今回ご援助頂きました備後教区の皆様にお礼申し上げます。宜しくお伝え下さい。」

事 雑 記 帳

法衣について



法衣とは本来袈裟を意味し、インドにおいては大・中・小の三衣(九条乃至三十五条・七条・五条に

限られていましたが、中国及び日本では氣候、風俗に適合した様々な僧服が創案され、法衣と称するものの範囲は拡大しました。

親鸞聖人から現代まで



親鸞聖人の法衣は専阿弥陀仏が聖人の生前に写したといわれる「鏡の御影」や壮年期の面影を伝えるといわれる「安城の御影」にみることが出来ます。前者は彩色はありますが、墨の装付け衣で帽子(もうす)を首に巻き、墨袈裟の五条と思われま。後者もほぼ同様ですが、彩色もありより明確です。これは当時の高位の僧の姿ではなく一般日常の法衣です。ただ、帽子(もうす)だけが本来高位の僧の勅許によるもので、このころ既に一般に用いられていたのか、あるいは尊貴の象徴として描かれたのではないかとされています。(『法衣史』井筒雅風)

蓮如上人の頃までは墨衣・墨袈裟が宗風でしたが九代実如上人の時代、永正十三年(一五一六)に香袈裟、同十五年に紫袈裟、大永

元年(一五二二)に紅衣が勅許されます。しかし、『実悟記』に「近代は未々の人まで黒衣になりぬ」「開山・蓮如上人の御心には叶い難き」とみえ、また「病中の寒朝に足袋をおすめしても用いらなかったほどなので、これらをあまりお召しにはならなかったようです。」

十一代顕如上人が永禄二年に門跡になられると紫衣・緋衣・袈代の公式着用となり翌年には由緒寺院が院家を賜り、官階も立てられ他宗的色彩が濃くなります。明治十二年、教団の近代体制への移行期に明如上人は十六要目の改革意見書を出され、法衣についても「墨の衣・墨袈裟・黄袈裟の一定にせねばならぬ」と回歸を謳われますが、実現はしませんでした。

その後、明治四十一年、鏡如上人の法灯継承に伴い法衣の大改革が行われます。記念五条(下がり藤)の制定、僧綱襟の分離、旧来の法衣(袍裳・鈍色・直綴・板浄衣・表袴・差貫・檜扇など)を廃して色衣・黒衣・切袴・略衣の布袍などが制定され、現在に至っています。

このように、時代の変遷とともに法衣も変わってきました。現在宗門では新たな法衣(カラー布袍)の制定が検討されています。

本願寺 備後会館 報恩講

勤修のお知らせ

報恩講の季節が近づいて参りました。本年度、本願寺備後会館報恩講を下記の通り勤修致します。皆様お誘い合わせの上、ご参拝下さいますようご案内申し上げます。

日 時 11 月 30 日 (木) 日中 午前 10 時から
速夜 午後 1 時 30 分から
※お斎をご用意いたしております。

会 場 本願寺備後会館 本堂
講 師 檜崎正道 師 (布教団連合総団長補佐)
講 題 『ふかきみ法にあいまつる』

基推第一部会主催

第 2 回「改憲論の現状と念仏者の課題」公開学習会

開催のお知らせ

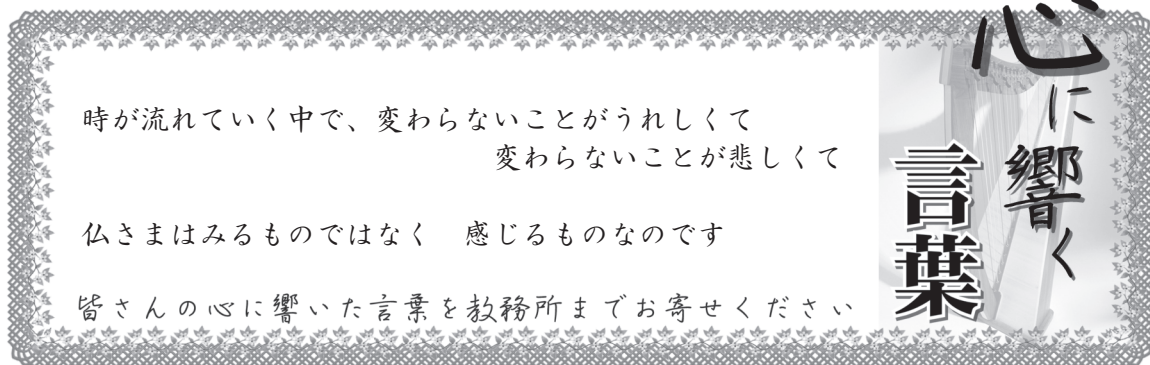
今年で二回目となります、基推第一部会主催による学習会を下記の通り行いますのでぜひご参加ください。

日 時 12 月 22 日 (金) 15:00 ~ 17:00
講 師 基推第一部会委員
参加費 無 料



十月より平田奈穂子さんに替わってお世話になる事になりました、今田八重子と申します。
不慣れでご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、日々勉強しながら少しでもお役にたてるよう頑張りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

オー
ジ
ン
ジ
オー
ジ
ン
ジ



教区月報

8 月

- 11 日 会館常例法座 (佐藤知水師)
- 12 日 若婦人専門委員会「ほほえみの会」
- 12 日 会館休館日 (16 日まで)
- 25 日 比婆組ご消息披露 (妙延寺)
- 26 日 御調西組ご消息披露
(久井文化センター)
- 27 日 仏壮夏期研修会 (三次組西善坊)
- 28 日 教区灯火のつどい (御調西組法泉寺)

9 月

- 2 日 世界仏婦大会 (ハワイ 7 日まで)
- 5 日 中・四国寺青野球大会 (備後 6 日まで)
- 8 日 基推第 1 部会 (みよし CC プラザ)
- 8 日 平和のつどい実行小委
- 11 日 会館常例法座 (梶 英俊師)
- 12 日 沼隈西組ご消息披露 (万福寺)
- 12 日 勤式練習会
- 13 日 教区会本山参拝 (14 日まで)
- 14 日 教区報専門委員会
- 15 日 仏婦役員会
- 19 日 ビハーラ研修協議会
- 21 日 IT 専門委員会
- 26 日 臨時教区会
- 27 日 連研のための研究会
- 28 日 深津組ご消息披露 (法真寺)
- 28 日 北部勤式研修会
- 29 日 同朋三者懇話会 (広島別院)

10 月

- 1 日 若婦人専門委員会「ほほえみの会」
- 1 日 ビハーラグリーンフェア「遺族のつどい」
- 2 日 寺婦研修旅行 (新潟 3 日まで)
- 4 日 中組ご消息披露 (光栄寺)
- 5 日 寺婦勉強会
- 6 日 御調東組ご消息披露 (照善寺)
- 6 日 布教団記念誌作成小委員会
- 7 日 門推履修者研修会
- 10 日 奥組ご消息披露 (正玄寺)
- 11 日 会館常例法座 (平山義文師)
- 11 日 組織教化連絡協議会 (庄原グランドホテル)
- 16 日 世羅組ご消息披露 (照明寺)
- 17 日 南部総代研修会 (沼隈西組福照坊)

11 月

- 18 日 北部総代研修会 (世羅組真行寺)
- 19 日 基推常任委員会
- 20 日 法式・法務専門委員会
- 23 日 世界仏婦大会写真交換会
- 24 日 備中里組ご消息披露 (浄心寺)
- 26 日 平和のつどい事前準備
- 27 日 仏婦・寺婦基幹運動研修会
- 30 日 平和のつどい (みよし CC プラザ)

11 月

- 2 日 秋期勤式研修会
- 6 日 仏婦連だより取材 (世羅組光源坊)
- 7 日 教区報専門委員会
- 8 日 法式・法務専門委員会
- 9 日 IT 専門委員会
- 11 日 会館常例法座 (刈屋光彰師)
- 11 日 若婦人専門委員会「ほほえみの会」

12 月

- 14 日 中・四国仏婦大会 (安芸)
- 14 日 少年連盟役員会
- 15 日 門推世話人会
- 17 日 三谿組ご消息披露 (照善坊)
- 18 日 仏壮活性化協議会
- 20 日 鴨川組ご消息披露 (金蔵坊)
- 20 日 勤式練習会
- 24 日 組長・組相談員研修会
- 28 日 仏婦おみがき
- 30 日 会館報恩講

12 月

- 6 日 仏婦基幹運動研修会
- 9 日 若婦人専門委員会「ほほえみの会」
- 11 日 会館常例法座 (長谷川憲章師)
- 19 日 基推第 4 部会
- 19 日 各専門委合同会議
- 22 日 憲法についての学習会
- 25 日 布教団役員会
- 28 日 午後より宗務納め (1 月 6 日まで)

1 月

- 9 日 宗務始め
- 11 日 会館常例法座 (那須英信師)
- 22 日 ビハーラ研修協議会

2 月

- 1 日 寺婦勉強会
- 2 日 同朋三者懇話会 (尾道)
- 5 日 会館休館日 (6 日まで)
- 11 日 会館常例法座 (堤 有年師)
- 14 日 僧侶研修会
- 18 日 仏婦若婦人後期研修会
- 19 日 勤式練習会
- 27 日 布教団部門別発表・基幹運動研修会

今後の予定

※教区行事並びに担当ブロック(連区)行事のみ掲載しております。

得度許可

おめでとう
ございます!!
(敬称略)

三 谿 組 立泉寺

一 條 和真 (和真)

三 次 組 常順寺

高 樋 一光 (一光)

御調束組 光林寺

箱 田 晃文 (晃文)

世 羅 組 法泉坊

毛 利 明子 (明泉)

(平成十八年八月十一日付)

教師授与

おめでとう
ございます!!
(敬称略)

奥 組 浄福寺

山 下 瑞円 (瑞円)

世 羅 組 西照寺

米 沢 友樹 (友樹)

(平成十八年八月三十日付)

敬 弔

お悔やみ申
上げます
(敬称略)

三 次 組 真光寺

住 職 北條 宏正

世 羅 組 教専寺

前 坊 守 福間 眞壽恵

(六月七日寂)
(九月十四日寂)

香典返礼

ありがとうございます
ございます

沼隈西組 正蔵坊 様

鴨川組 福泉坊 様

三 次 組 真光寺 様

より香典返礼を頂きました。

お 礼

ありがとうございます
ございますこのたび、故開地弘門徒宗会
議員(ご遺族(開地貞子)様より、
本願寺備後会館へ「経卓」並びに
「焼香卓」をご寄贈いただきました。
心より御礼申し上げます。

お 礼

ありがとうございます
ございますこのたび、沼隈西組福照坊仏
教婦人会様より、災害対策費へ
ご寄付をいただきました。
心より御礼申し上げます。

皆様の「寺報」を

募集してまうす!!

皆様のお寺で寺報を
作っておられませんか? もし、作ってお
られませんでしたら、是非、教務
所までお送り下さい!
教務所ロビーに、閲覧
ファイルを設けており
ますので、そこで、皆様
のお寺をご紹介させて
いただきます。

年末年始会館休館日

十二月二十八日(木)午後から

一月六日(土)まで

二月会館休館日

二月五日(月)から六日(火)まで

本願寺備後会館の年末年始休
館日並びに二月会館休館日を
お知らせいたします。

編集後記

報恩講の季節になりました。お
寺には秋初穂として新米のお供
えが届けられています。有り難
いことだなあと感じます。▼あ
るテレビ番組で、一升とはお米
何粒かを数えていました。八人
掛かりで十時間かけて数えた結
果、九万六千三百二十粒でした。
一日にお米一合食べると、約一
万のお米を食べた、いのちを頂
いたことになります。▼今年の
元日の新聞に、ご門主と作家の
五木寛之氏との対談が掲載され
ていました。その中で、「お金を
払って食事をするのに、なんで
『いただきます』や『ごちそうさ
ま』と言わなければならぬ
の?」と問う子がいる、という文
章がありました。▼数え切れない
のちが生かされていることも沢
山の方々のお陰で食卓に届くこ
とも分かります、何事もお金で片
付けてしまっています。▼「お金
が一番大事、お金さえあれば」、
そんな考え方が蔓延する中で、
いのちの尊さを改めて見つめ直
したいと思います。



C・H